動物用医薬品

# ビスキノン散 Bisukinon

動物用整胃腸薬

### 【本質の説明又は製造方法】

本剤はタンニン酸ベルベリン、次硝酸ビスマス及びゲンショ ウコ末を有効成分とする整胃腸剤であり、フレーバーによっ て嗜好性を高めた経口散剤です。また、本剤は殺菌作用、収斂 作用及び胃粘膜保護作用等を有した、下痢の症状を改善する 製剤です。

### 【成分及び分量】本品 100g 中

有効成分	含量
タンニン酸ベルベリン	1.5 g
次硝酸ビスマス	15.0 g
ゲンノショウコ末	15.0 g

【効能又は効果】下痢における症状改善

【用法及び用量】右記の量を1日1~3回経口投与する。

対象動物	体 重	1 回の投与量 (g)
牛、馬	300kg 以上	40
	100 ~ 300kg	20
	100kg 以下	10
豚、緬・山羊	100kg 以上	40
	30 ~ 100kg	20
	10 ~ 30kg	13.3
	10kg 以下	8

### リケン下痢治療薬シリーズ

### ◆ ビスキノン散フレーバー

概 要 下痢治療における飼養者のファーストチョイス

タンニン酸ベルベリン・次硝酸ビスマス・ゲンノショウコ末

ピスキノン散

下痢における症状改善

牛、馬、豚、緬·山羊

剤 形 散剤(フレーバータイプ)

成 分 硫酸ベルベリン

2022 年発売

効能効果 下痢

動物牛、馬、豚、緬·山羊

◆ メンブトン 20% 注

規格 100mL×5本

◆ ベルパリン注

剤 形 注射剤

2019 年発売

### ◆ メンブトン散フレーバー

概 要 嗅覚と味覚を刺激するフレーバーを添加し、復活発売

成分メンブトン

効能効果 単純性下痢症

動物脈

規格 1kg (100g×10分包)

剤 形 散剤(フレーバータイプ)

2022 年発売

# 対能効果 牛:胃腸カタル、第一胃食滞 豚:単純性下痢症

概 要 消化酵素の活性を高め、消化機能を改善する注射剤

即効性に優れた硫酸ベルベリン注射剤を現場ニーズに応えて

動物牛、豚 50mL×2本

成分メンブトン

剤 形 注射剤

2022 年発売

### 動物用医薬品

# ビスキノン散



動物用整胃腸薬

# Bisukinon Flavor

## 33年ぶりの フルモデルチェンジ

あの「ビスキノン末」が 「ビスキノン散フレーバー」にリニューアル!





### ビスキノン散フレーバーの3つの特長



### 下痢改善率 110%にアップ

4 つの成分を配合することで、従来品と比較し、臨床効果(下痢の症状改善)が 110% にアップしました。

- タンニン酸
- ゲンノショウコ

炎症反応を抑制して組織障害を 防ぎます。また、腸粘膜に付着し、 粘膜が傷ついた炎症面を収斂 作 用、止血作用により修復します。

### ● ベルベリン

胆汁分泌促進作用があります。 腸内細菌の異常増殖を抑制し(殺菌作用<sup>1)</sup>)、腸内細菌叢の正常化 にはたらきます。

### ● 次硝酸ビスマス

難溶性の皮膜をつくり、粘膜、潰瘍面を保護します。また、硫化水素と結合してガス刺激を和らげることにより、腸運動を抑制し、収斂作用を示します。

1)C. Chunqiu. et. al., Am J Chin M42(5):105 3-70. 2014

## 2

### 牛にもおいしいフレーバー

牛が好むミルクフレーバーです。動物が自発的に摂食するため、飼養者や獣医師の動物への投与負担を軽減します。

### 投与方法の例

▼ペースト状または団子状にして投与









ビスキノン散フレーバーをベーストにして投与したところ、 自発的に食べました。



▼ トップドレスで投与

## 3

### 有効成分濃縮タイプで利便性アップ

ビスキノン散フレーバーでは、濃縮処方にすることで投与量が減り、利便性がアップしました。 4 つの成分が胃腸全体に同時に作用するため、臨床効果も向上します。

新旧比較	ビスキノン散フレーバー	ビスキノン末
<sub>投与3日目の</sub> 臨床効果	○ 下痢改善率 90% ²)	下痢改善率 82% 3)
嗜好性	◎ ミルクフレーバー	△ フレーバーなし
利便性	<b>投与量少</b> 300kg 以上の牛で投与量 40g	<b>投与量多</b> 300kg 以上の牛で投与量 100~130g

2) 社内資料 3) 臨床獣医 2022 年 2 月号

### 臨床試験

供 試 牛 動物:子牛50頭(黒毛和牛25頭、ホルスタイン種25頭)

年齢:生後0~4ヶ月齢

体重:40~200kg

症状:下痢

投与方法

1日2回、20gを経口投与(最大7日間連続投与)

併用薬剤

ビスキノン散フレーバー以外の止瀉薬は使用しないものとし、駆虫薬、抗菌

薬、生菌剤、補液などは必要に応じて使用した。

評価項目

下記項目を7日間観察した。

1下痢の状態:正常便、泥状便、水様便、血便の4段階で評価

2改善日数:正常便に改善されるまでの日数を評価 3食欲の改善日数:正常に改善されるまでの日数を評価

1 ビスキノン散フレーバー投与前・投与3日目・投与6日目の糞便の改善の様子

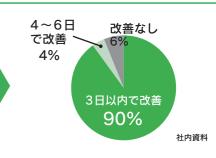


「ビスキノン散フレーバーを投与し、正常便に改善するまで何日かかりましたか?

90% の牛が3日以内、

94% の牛が6日以内で

正常便に改善しました。



### 子牛の下痢症への初期対応例

